

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 藤岡 寛

本研究は、重症心身障がい児（以下、重症児）の主養育者を対象に、横断的無記名自記式質問紙調査を通じて、児の養育に向けたエンパワメント及び養育肯定感とその関連要因の解明を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 重症児の主養育者の家族エンパワメント尺度の得点は、家族ドメイン  $37.02 \pm 7.47$ 、サービスドメイン  $39.09 \pm 7.40$ 、社会/政治ドメイン  $25.06 \pm 6.18$ （平均 $\pm$ 標準偏差）であった。
2. エンパワメントを目的変数とする重回帰分析では、児の睡眠問題・ライフイベント・暮らし向き・家族以外からのソーシャルサポート認知がエンパワメントに寄与していた。中でも、家族以外からのソーシャルサポート認知がもっともエンパワメントに寄与していた。
3. 養育肯定感を目的変数とする重回帰分析では、家族以外からのソーシャルサポートは養育肯定感への寄与を認めなかった。一方、在宅サービス利用は寄与を認めた。もっとも寄与を認めたのは、養育負担感であり、養育負担感が軽減されると養育肯定感が高まることが明らかになった。また、エンパワメントの家族ドメイン・社会/政治ドメインで寄与を認めた。

以上から、本研究は、今までアプローチが難しかった重症児の主養育者を対象に、エンパワメントの実態とその関連要因を明らかにした。そして、家族支援の本質的な目的である、養育肯定感に関して、新たにエンパワメントの存在を明らかにした。本研究は、重症児の家族支援に関して重要な示唆を含むと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。